



Title	スペイン語前置詞の認知意味論的分析 —enを中心に—
Author(s)	長縄, 祐弥
Citation	大阪大学, 2018, 博士論文
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/69636">https://doi.org/10.18910/69636</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 論文内容の要旨

氏名	(長縄 祐弥)
論文題名	スペイン語前置詞の認知意味論的分析 ―enを中心に―
<p>論文内容の要旨</p> <p>本論文は、スペイン語の前置詞enの中心的意味である空間的意味に焦点をあて、前置詞が語彙の意味を有していることは認められるものの、前置詞の意味がそれ自身で表されるのではなく、共起する動詞や名詞などの語句が有する百科事典的知識によってその意味がより明確になることを示しながら、en自体が表しうる空間的意味の範囲を記述することを目的としたものである。</p> <p>第1章は導入部分にあたり、本論文の目的について述べている。enの空間的意味は「内部」、「表面の上」、「隣接」の3つに大きく分けられるが、これらの解釈は動詞だけではなく、共起する名詞の百科事典的知識が影響すると考えられる。これらの3つの意味を1つの「空間的意味」としてまとめることは可能ではあるものの、3つの意味に対して、dentro de, sobre, aというそれぞれの表現が交替可能である場合がみられるため、これらの意味を多義的別義として認める立場をとる。これまで、enとdentro de、enとsobre、enとaの意味について比較考察をおこなう研究は存在したが、そこではenが有する広い空間的範囲をより明確にするためにdentro deやsobreが用いられ、これらの表現がenと交替可能な場合には意味的差異はみられないと述べるものがほとんどであった。そこで、「形式が異なれば、意味も異なる」という認知意味論の立場に基づいて、enの空間的意味と、それと交替可能な表現を比較し、交替可能な場合の意味的差異およびその要因、そしてそれらを踏まえてenが示しうる空間的意味を体系的に記述するという目的を示した。</p> <p>第2章では、本論文における理論的枠組みとして認知言語学、とりわけ認知意味論を援用することを述べ、そのなかで認知言語学の基本となる考え方であるカテゴリー化、プロトタイプ理論、そして百科事典的知識について概観し、スペイン語においてもこれらの理論が援用可能であることを確認した。さらに、多義語の意味分析に先立ち、メタファーとメトニミーの理論、トラジェクターとランドマークの概念、イメージ・スキーマの概念、そしてこのイメージ・スキーマの概念を批判的に検討しているVandeloise(1991)の主張についても同様に確認した。また、本章の後半部では、スペイン語の前置詞の意味について論じている先行研究の記述を概観し、前置詞は語彙の意味を有することを主張した。そして、前置詞の語彙の意味は前置詞と共起する表現の百科事典的知識に応じて変化するという仮説を提示し、そのひとつの根拠となりうる荒川(1992)の日本語の「トコロ性」の概念を確認した。</p> <p>第3章では、スペイン語の前置詞の意味について体系的に記述されたLópez(1972)およびMorera Pérez(1988)を確認し、その方法論における問題点を検討した。その問題点のなかでも、前置詞(句)が交替可能である場合には2つの表現の間に意味的差異がないものとしている点、また前置詞の意味を共起している動詞の意味にしたがって記述している点を指摘した。続いて、enの意味を記述している先行研究を観察し、プロトタイプ理論に基づいてenの中心的意味は空間的意味であることを確認した。</p> <p>第4章では、enとa、enとsobre、enとdentro deのペアをそれぞれ比較し、2つの表現の間にみられる意味的差異を考察した。最初にaとenをとりあげ、主に先行研究の記述をもとにaが位置を表す場合の特徴を観察した。aは移動動詞と共起することで基本的に「方向」を表す前置詞であるが、移動を表さない動詞と共起する場合には「隣接」の意味で解釈される。この意味で用いられる際に共起するランドマークは限定的であることを確認したうえで、共起しやすいランドマークのなかから平面を有する名詞であるmesa『テーブル』、入り口や出口を表す名詞であるpuerta『ドア』、隣接することで利用することを示唆する名詞であるpiano『ピアノ』やvolante『ハンドル』、そして作用性を有する名詞であるsol『日光』やfuego『火』という4種類の名詞を選択し、enと共起する場合とaと共起する場合でその差異を比較しながら考察をおこなった。その結果、aは本来の「方向」の意味から、移動を表さない動詞と共起することで「隣接」の意味を表すようになり、そこからメトニミー的意味が拡張し、共起する名詞を利用することで何らかの動作をおこなう目的が示唆されるようになったことを明らかにした。このように、「方向」から「隣接」、「隣接」から「メトニミー」と意味間の関連を記述しながら、mesaやpuertaといった名詞がaと共起可能であ</p>	

る要因について考察した。そのうえで、**a**と**en**の差異について、**en**はもっぱら空間的意味が表される一方で、**a**は空間的意味に加えてメトニミー解釈がなされることが多いと述べ、これは共起するランドマークに対する百科事典的知識によるものであると主張した。続いて、**en**と**sobre**について考察をおこなった。最初に先行研究の記述を確認した後、**en**と**sobre**のランドマークとして**cama**『ベッド』、**silla**『椅子』、**mesa**『テーブル』、**suelo**『床』を選択し、2つの前置詞が交替可能である場合における意味的差異を観察した。**cama**、**silla**、**mesa**については、それぞれのランドマークに対してふさわしい行為、つまりプロトタイプ的である場合には**en**と共起しやすく、可能ではあるがふさわしくない行為、つまり非プロトタイプ的である場合には**sobre**と共起しやすいことが観察された。一方で、**suelo**は、先の3つの名詞とは異なり、**en**と共起する例の数が**sobre**に比べて著しく多く、**sobre**と**en**の間に大きな意味的差異が認められないことをコーパスによって明らかにした。これは**suelo**が**mesa**などとは異なり、特定の用途が想定されないものであるため、プロトタイプ的な行為が見いだしにくいことが要因であると考えられる。最後のペアである**en**と**dentro de**の意味的差異についても、これまでと同様の手法で考察をおこなった。ここでも先行研究の記述を確認した後、日本語の「中」の概念をもとにスペイン語の「中」の概念について観察をおこない、日本語の「～に」と「～の中に」の対立がスペイン語の**en**と**dentro de**の対立に類似していることを指摘し、3次元の名詞に対しては「中」や**dentro de**を共起させなくても「内部」の意味が表れることが多いことを確認した。そして、**en**と**dentro de**の意味的差異について考察をおこなっているHernández(2013)の記述を確認し、本論文ではこれとは別の観点からの考察、具体的には、**en**と**dentro de**の使用頻度およびその意味的差異について、ランドマークとして用いられている名詞の百科事典的知識と、共起している動詞やその他の表現が見合うものであるかどうかを観察した。コーパスによる検証の結果、空間的意味で用いられる**dentro de**の出現数は**en**の出現数に比べずっと少ないことが明らかになったが、これは「中」の概念がすでに名詞に含まれていることが多いこと、そして**dentro de**は空間的意味よりも時間的意味で用いられることが多いことが要因としてあげられる。しかしながら、出現数が少ないことと意味的差異がないことは等価ではないため、本論文では**agua**と**coche**をランドマークとして選択し、**en**と**dentro de**で意味的差異がみうけられる場合があることを示した。これら2つの名詞に関しても**dentro de**よりも**en**と共起する例が多く観察されたものの、ランドマークに対する行為がプロトタイプ的である場合には**en**と共起しやすく、そうでない場合には**dentro de**と共起しやすいことが観察された。

第5章では、前章での考察に基づき、本来**en**がどのような空間的意味を有しており、それがどのように明確になるか、さらに類義語と交替可能な場合はどのような場合であるのかを考察した。前置詞**en**はランドマークに対してトラジェクターを位置づける語であり、その空間的意味は1. 隣接、2. 表面の上、3. 内部の3つを有していると定義したうえで、この1~3の**en**の意味を明確にする主な要素には、**en**を要求する動詞、ランドマークの大きさや形状、ランドマークとトラジェクターに対する百科事典的知識があることを示した。**en**を要求する動詞にはその動詞の意味に「内部」の意味が含まれていることが多いため、共起する**en**の意味があるというよりもむしろ動詞がその意味を担っており、**en**の語彙的意味は希薄になると考えられる。これまでの先行研究ではこのように、動詞の意味にしたがって前置詞の意味が記述されることがほとんどであった。そこで本論文では、動詞以外の要素としてランドマークの大きさ、すなわちランドマークが3次元か2次元かによって意味が変化しうることを述べた。また、ランドマークの形状も大きな要素であり、ランドマークが平面的であれば**en**が、モノ的であれば**sobre**が共起する傾向があることを明らかにした。ただし、これらの要因だけでは**en**の意味が明確にならない場合もあり、その場合にはランドマークとトラジェクターに対する百科事典的知識によって**en**の意味が変化することを指摘した。一方で、トラジェクターとランドマークが接触しない場合には**en**は隣接を表すが、このとき**a**が交替する場合がみられる。しかしながら、隣接を表す**a**と共起可能なランドマークは限定的であり、その場合には概してメトニミー的解釈がなされ、隣接しているランドマークによって想起される行為が表されることが多い。

最後の第6章では総括をおこない、動詞の意味だけではなく、前置詞と共起するランドマークやトラジェクターの性質によっても表される意味が変化しうることを本論文では主張した。これに加えて、**en**の類義語は**en**と常に交替可能であるとは限らず、交替する場合には第5章で観察したような、ランドマークの大きさや形状、ランドマークとトラジェクターに対する百科事典的知識などといったさまざまな要因が考えられ、さらには同じ空間的位置を表している場合であっても意味的差異がみられることを本論文の結論とした。

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 ( 長 縄 祐 弥 )		
	(職)	氏 名
論文審査担当者	主 査	言語文化研究科教授 長谷川 信弥
	副 査	言語文化研究科教授 川北 恭子
	副 査	言語文化研究科准教授 早瀬 尚子
	副 査	言語文化研究科准教授 田村 幸誠
	副 査	神戸市外国語大学准教授 川口 正通

## 論文審査の結果の要旨

全6章からなる本論文は、スペイン語の前置詞enの中心的意味である空間的意味を認知言語学の観点から論じたものである。enの意味は、本来持つ空間的意味が、共起する動詞や名詞などの語句が有する百科事典的知識によって明確化されること、また、共起するランドマークやトラジェクターの性質によっても表される意味が変化することを示し、enが持つ空間的意味の範囲を記述することを目指している。

第1章では、本論文の目的を提示している。enの空間的意味は「内部」、「表面の上」、「隣接」の3つに分けられるのが従来からの諸研究における説明であるが、本論文はこれらの意味を多義的別義として認める立場をとり、enの空間的意味とそれと交替可能な前置詞(句)を比較することによって、交替可能な場合の意味的差異およびその要因を考察し、enが示しうる空間的意味の体系的な記述をおこなうことを目的とすることが述べられている。

第2章では、理論的枠組みとしての認知意味的理論がスペイン語にも援用可能であることを示し、カテゴリー化、プロトタイプ理論、そして百科事典的知識などの概念を確認し、前置詞が語彙的意味を持ち、それが共起する表現の百科事典的知識に応じて変化するという仮説を提示している。

第3章では先行研究の問題点を指摘し、プロトタイプ理論に基づいてenの中心的意味は空間的意味であることを確認している。

第4章では、enの空間的意味とそれと交替可能な前置詞(句)、すなわち、enとa、enとsobre、enとdentro deのペアをそれぞれ比較し、2つの表現の間にみられる意味的差異を、用例を用いて考察し、共起するランドマークに対する百科事典的知識によって意味的差異が生じることを主張している。

第5章では、enが本来的に持つ空間的意味がどのように明確になるか、さらに類義語と交替可能な場合はどのような場合であるのかを考察し、動詞の意味に応じた前置詞の意味記述のみを提示する大半の先行研究の不備を指摘している。そのうえで、enのもつ3つの空間的意味を明確にする主な要素には、enを要求する動詞、ランドマークの大きさや形状、ランドマークとトラジェクターに対する百科事典的知識があることを主張し、第2章で提示した仮説の正当性を確認している。

第6章では結論として、enの空間的意味が、動詞の意味だけではなく、この前置詞と共起するランドマークやトラジェクターの性質によっても前置詞の表す意味が変化することを述べている。さらに、enの類義語とされる前置詞(句)は、enと常に交替可能であるとは限らず、交替する場合には第5章で観察したような、ランドマークの大きさや形状、ランドマークとトラジェクターに対する百科事典的知識などといったさまざまな要因によって、同じ空間的位置を表している場合であっても意味的差異がみられることを記述している。

以上のことから、本論文は、前置詞enの空間的意味についての先行研究の問題点を的確に指摘し、この前置詞の空間的意味解釈に新たな知見を提示していると判断できる。